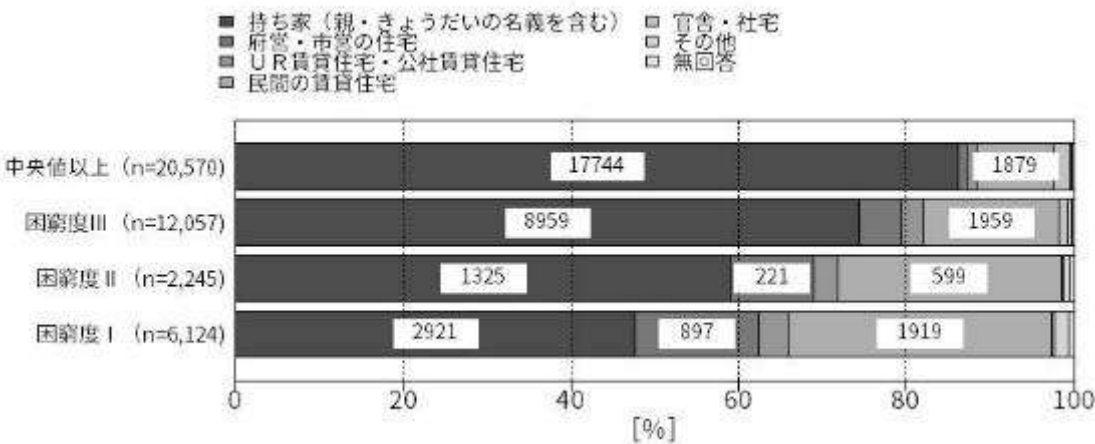


困窮度別に見た、住居（保護者票 問4）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

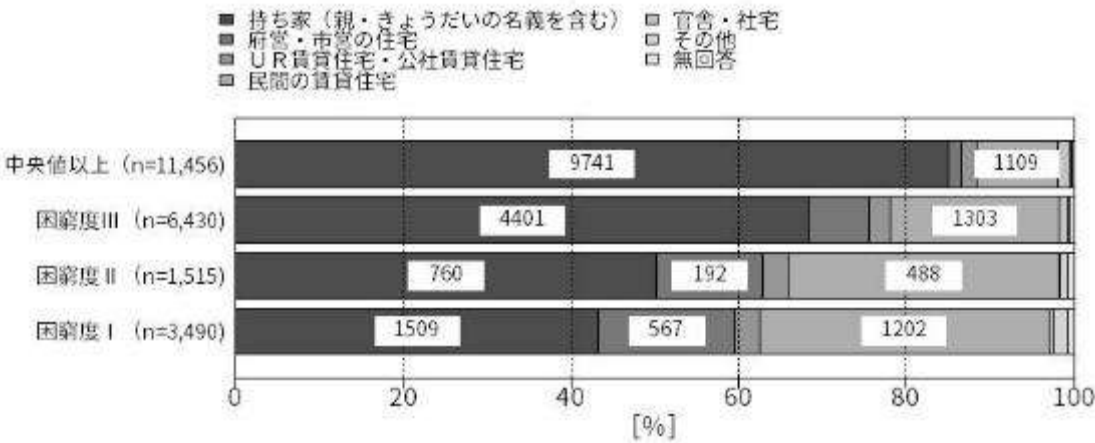
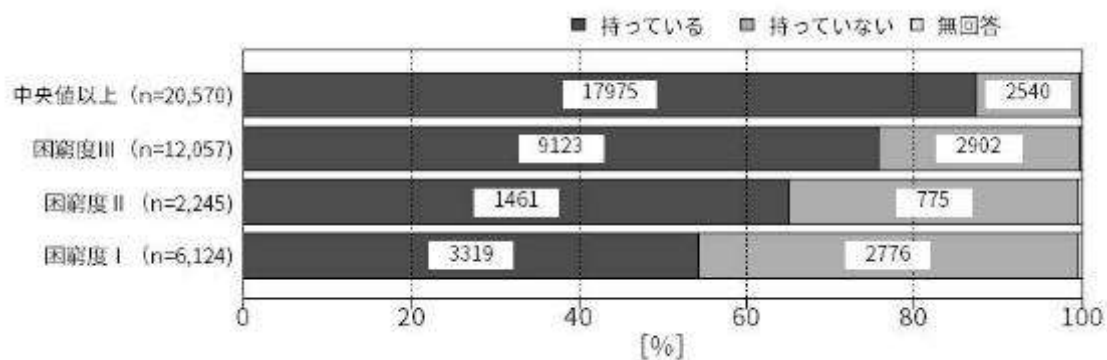


図 119. 困窮度別に見た、住居

困窮度別に住居を見ると、困窮度が高まるにつれ、持ち家の保有率は低くなっている。中央値以上群では、「持ち家」と回答した割合は85%であるのに対して、困窮度Ⅰ群では、43.2%にとどまっている。

困窮度別に見た、自家用車の所有（保護者票 問5）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

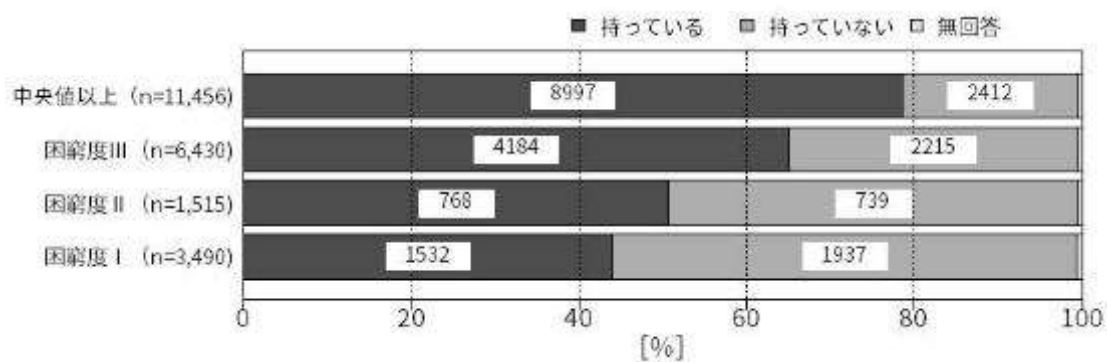
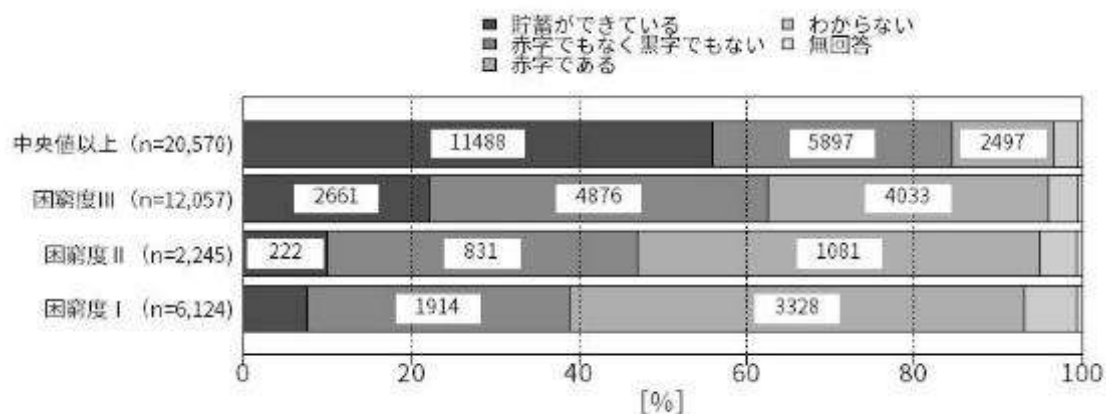


図 120. 困窮度別に見た、自家用車の所有

困窮度別に自家用車の所有を見ると、困窮度が高まるにつれて、車の所有率が低くなっている。中央値以上群では、車を所有している世帯が 78.5%であるのに対して、困窮度Ⅰ群では 43.9%と約 4 割にとどまっている。

困窮度別に見た、家計状況（保護者票 問6(1)）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

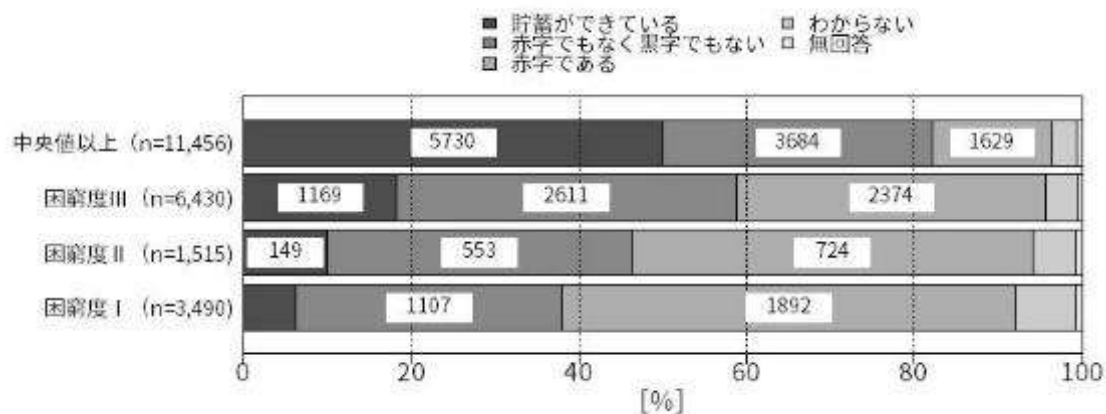
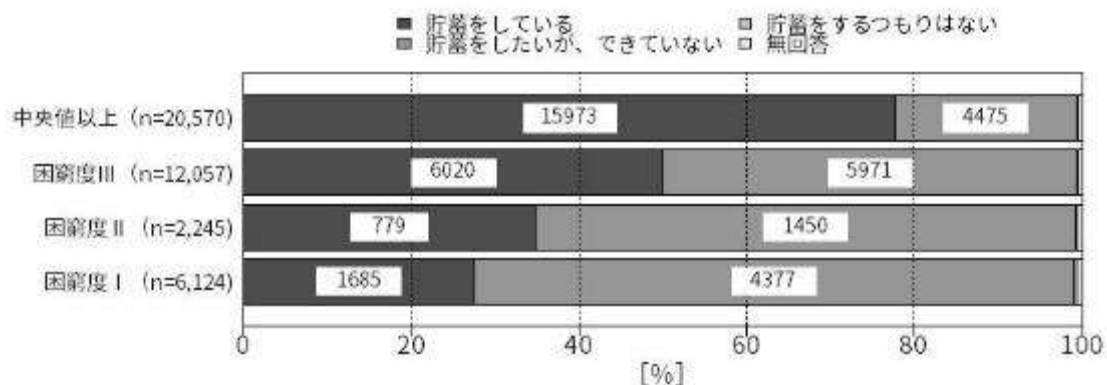


図 121. 困窮度別に見た、家計状況

困窮度別に家計の状況を見ると、困窮度が高まるにつれて、「貯蓄ができている」と回答する割合が低くなり、逆に、「赤字である」という回答が高くなっている。中央値以上群では、「赤字である」と回答した世帯の割合は、14.2%であるのに対して、困窮度Ⅰ群では、54.2%となり、5割強を占めた。

困窮度別に見た、子どものための貯蓄（保護者票 問 6(3)）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

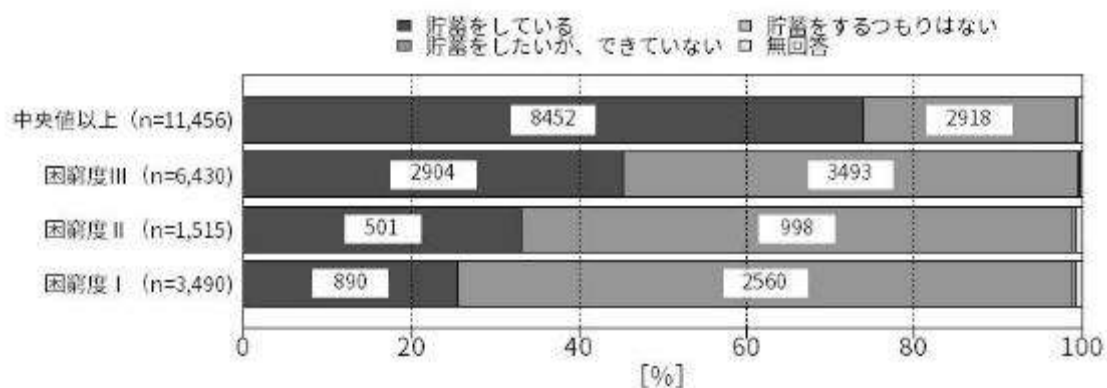
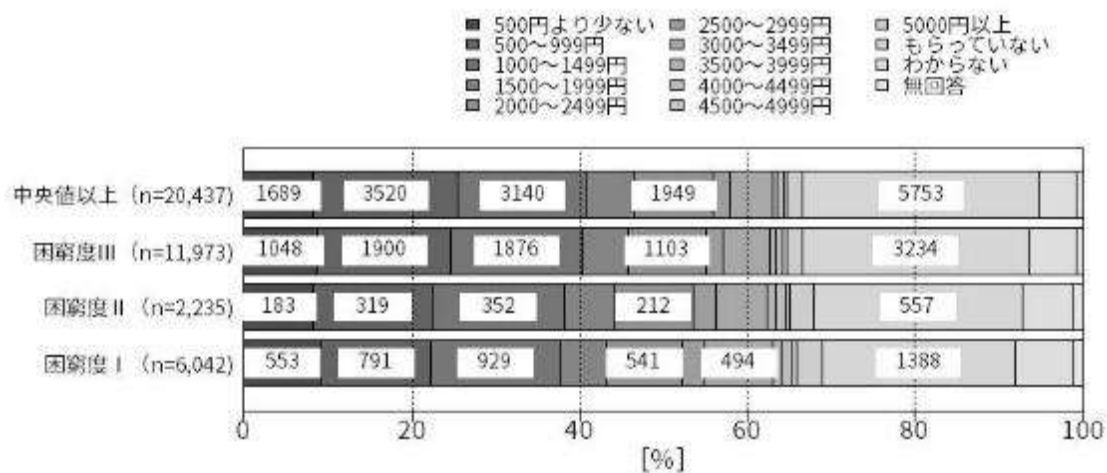


図 122. 困窮度別に見た、子どものための貯蓄

困窮度別に子どものための貯蓄を見ると、困窮度が高まるにつれ、「貯蓄をしたいが、できていない」という回答が高く、約 7 割が「貯蓄をしたいが、できていない」と回答している。中央値以上群では、「貯蓄をしている」と回答する割合が 73.8%を占めたが、困窮度Ⅰ群では 25.5%にとどまった。

困窮度別に見た、おこづかいの金額分布（子ども票 問 20(1)）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

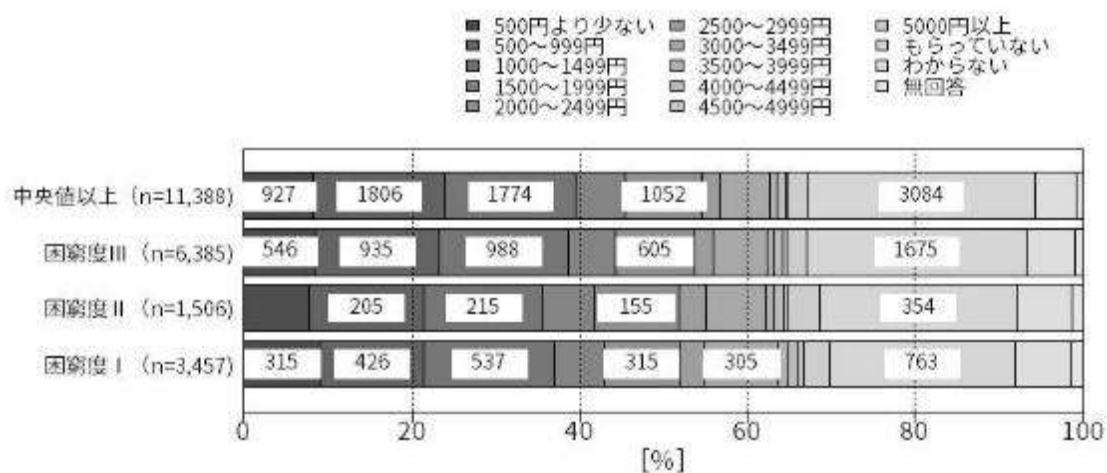
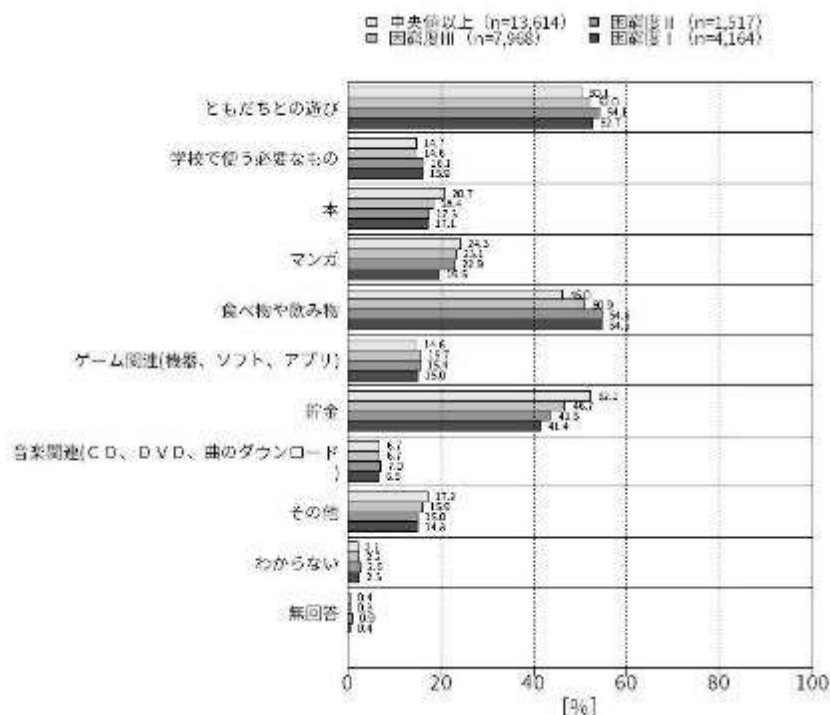


図 123. 困窮度別に見た、おこづかいの金額分布

困窮度別におこづかいの金額分布を見ると、困窮度による大きな違いは見られない。おこづかいをもらっているが、その用途や必要な物は親に購入してもらっているか、など詳細をみる必要がある。

困窮度別に見た、おこづかいの使い方（子ども票 問 20(3)）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

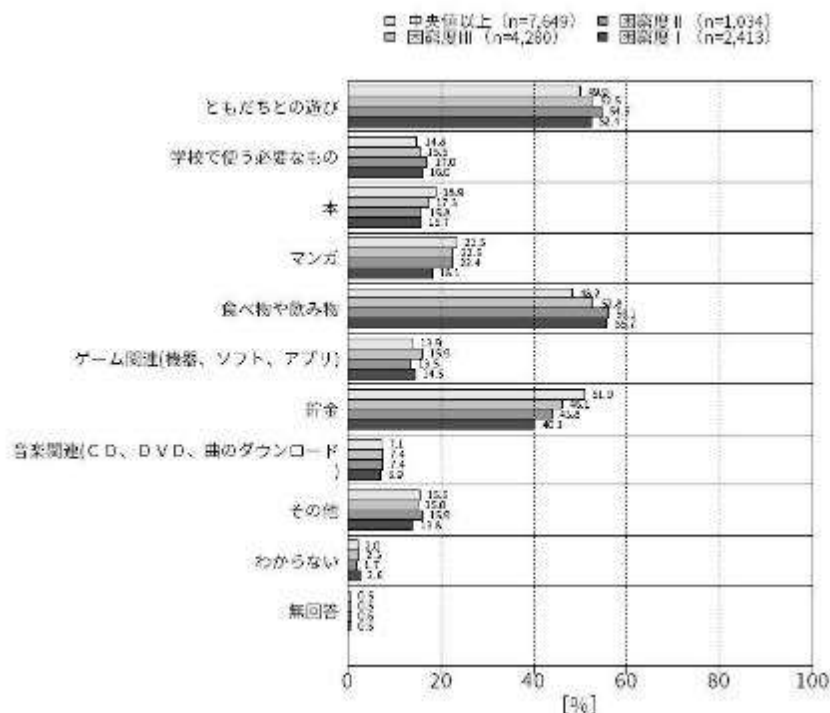


図 124. 困窮度別に見た、おこづかいの使い方

困窮度別におこづかいの使い方を見ると、「貯金」が中央値以上群、困窮度Ⅲ群では、それぞれ、51%、46.1%であるのに対して、困窮度Ⅱ群、困窮度Ⅰ群では、それぞれ、43.8%、40.1%と低くなっている。また、「食べ物や飲み物」と回答した割合が、困窮度が高まるにつれて高くなっている。その他の項目について、大きな差は見られない。

＜経済状況に関する考察＞

今回の調査では、経済的状況と生活上の困難の経験との間に関係があることが示されている。本調査で用いた経済的理由による生活上の困難に関する質問項目は、現代日本において「通常であれば可能な生活」を想定して設定している。中央値以上の群でそれに該当する世帯は36.8%であったのに対し、困窮度が深刻になるにつれて該当世帯の割合は下がり、困窮度Ⅰの群では6.8%にとどまった。一方、「電気・ガス・水道などが止められた」、「電話(固定・携帯)などの通信料の支払いが滞ったことがある」、「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」など、住居やライフラインに関する生活面の困難を感じた世帯は、中央値以上の群では1%前後であるのに対し、困窮度Ⅰの群では、それぞれ、8.2%、13.7%、12.2%という回答になっている。この質問項目は概ね半年という期間を限定した質問であるにも関わらず、回答に大きな差が生じていることは生活面での格差を表しているといえるだろう。さらに「国民年金の支払いが滞ったことがある」と回答した困窮度Ⅰの群の世帯は24.2%にのぼった。現在だけでなく、将来においても保護者が経済的に困難な状態に陥る可能性を示唆しているといえるだろう。生活上の困難は、心理面にも影響していることも結果からは明らかになっている。「生活の見通しが立たなくて不安になったことがある」と回答した世帯は、中央値以上の群では9.0%であるのに対し、困窮度Ⅰの群では43.7%であった。

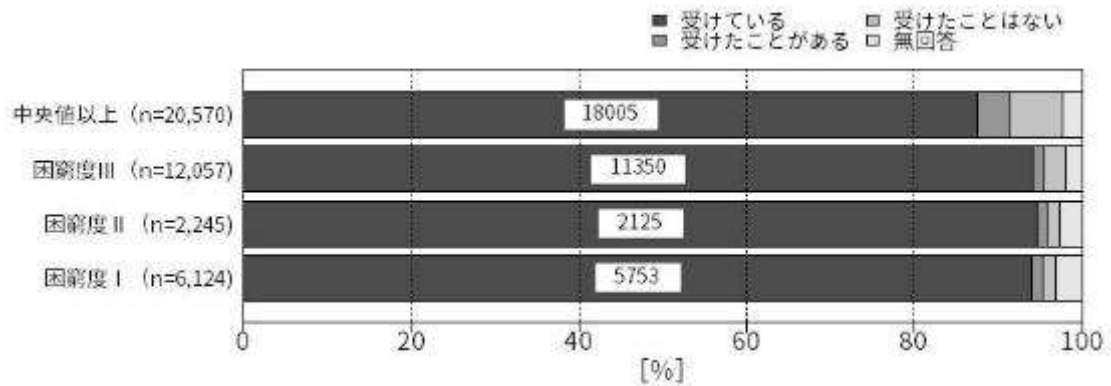
世帯の経済状況は子どもの生活にも影響を与えていることも確認することができた。「子どもを医療機関に受診させることができなかった」と回答した世帯は、困窮度Ⅰの群では3.4%であった。中央値以上の群では、0.4%の世帯に留まっている。「子どもに新しい服や靴を買うことができなかった」と回答した世帯は、困窮度Ⅰの群では24.8%で、中央値以上の群では3.9%であった。どちらの項目も、中央値以上の群と困窮度Ⅰの群で大きな差があり、世帯の経済格差が子どもを取り巻く状況の格差につながっていることがわかる。

学習の機会においても同様のことがいえる。「子どもの進路を変更した」世帯は、中央値以上の群では1.0%にとどまったものの、困窮度Ⅰの群では4.5%にのぼった。「子どもを学習塾に通わすことができなかった」世帯は、中央値以上の群では4.5%、困窮度Ⅰの群では24.3%であった。学力ではなく、家庭の経済状況によって学習の場や機会が制限されてしまっていることが示唆されている。さらに、「子どもの将来のために貯蓄をしている」割合は、中央値以上の群では73.8%であるのに対し、困窮度Ⅰの群に属する73.4%の世帯が、貯蓄をしたいができていない、と回答しており、この格差は今後も固定化・拡大する可能性がある。学習機会以外にも、「子どものための本や絵本の購入」、「習い事」や「家族旅行」など余暇活動を経済的な理由によって断念する世帯の割合は、中央値以上の群と困窮度Ⅰの群とでは差が生じている。中央値以上の群では、それぞれ1.4%、4.4%、9.9%であるのに対して、困窮度Ⅰの群では11.0%、27.7%、42.2%と少なくとも4倍以上の差が見られた。また、「どれにもあてはまらなかった」と回答している世帯が、中央値以上の群では、67.4%に達しているが、困窮度Ⅰの群では3割ほどであった。

(2) 家庭状況（制度等）

困窮度別に見た、児童手当（保護者票 問 30(3)①）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

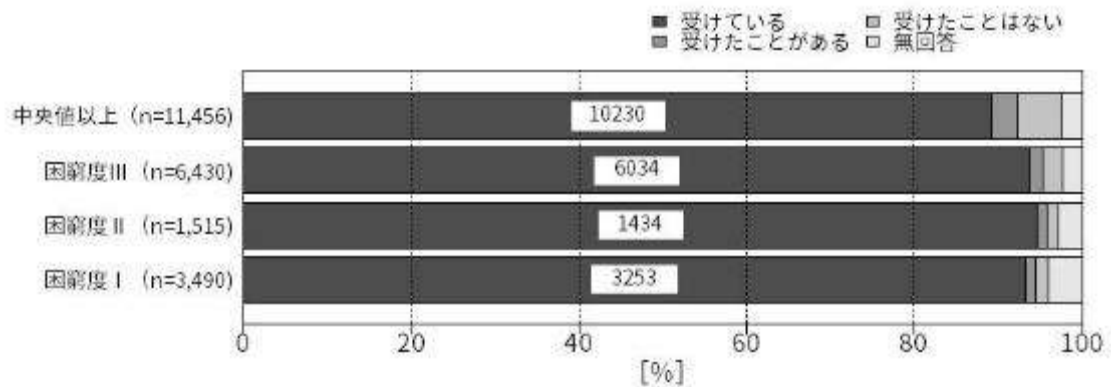
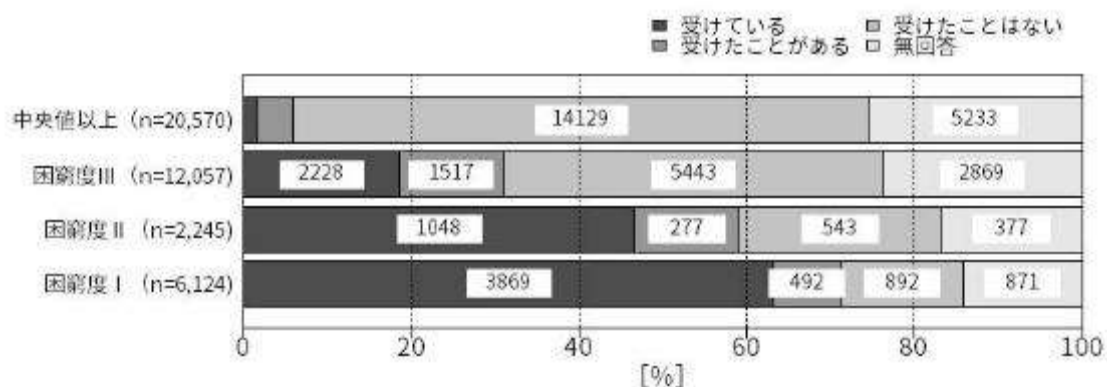


図 125. 困窮度別に見た、児童手当

児童手当は多くの世帯が受給していた。困窮度別に児童手当の受給率を見ると、困窮度Ⅰ～Ⅲ群において、とりわけ多くの世帯（93.2%～94.7%）が「受けている」に回答した。

困窮度別に見た、就学援助費（保護者票 問 30(3)②）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

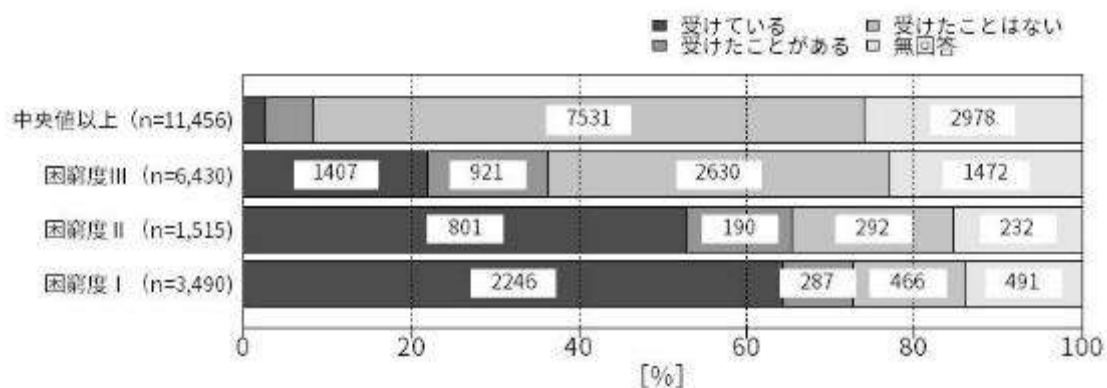
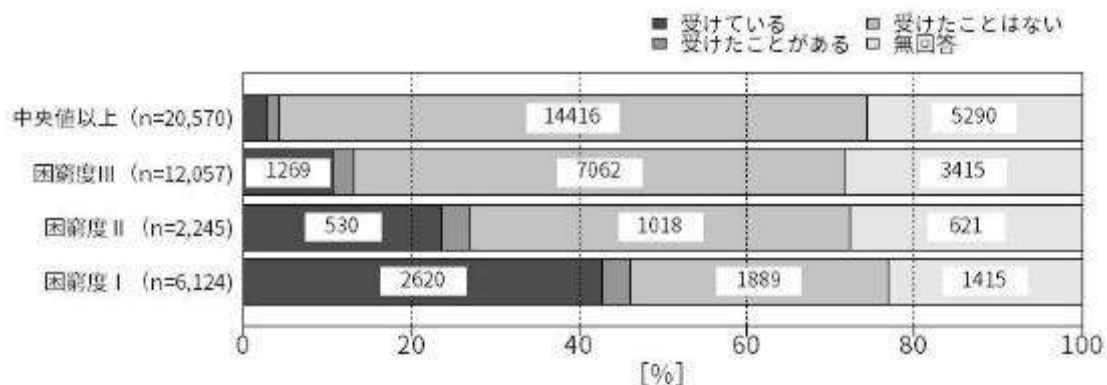


図 126. 困窮度別に見た、就学援助費

困窮度別に就学援助費の受給率を見ると、困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている。

困窮度別に見た、児童扶養手当（保護者票 問 30(3)③）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

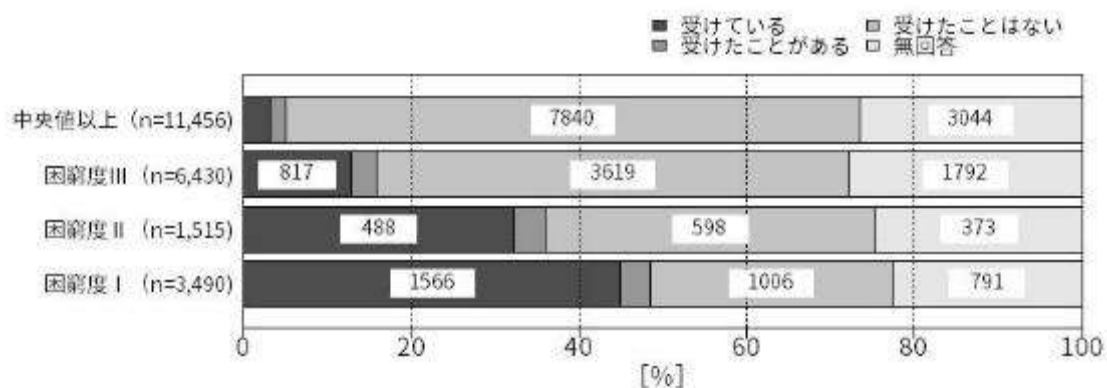
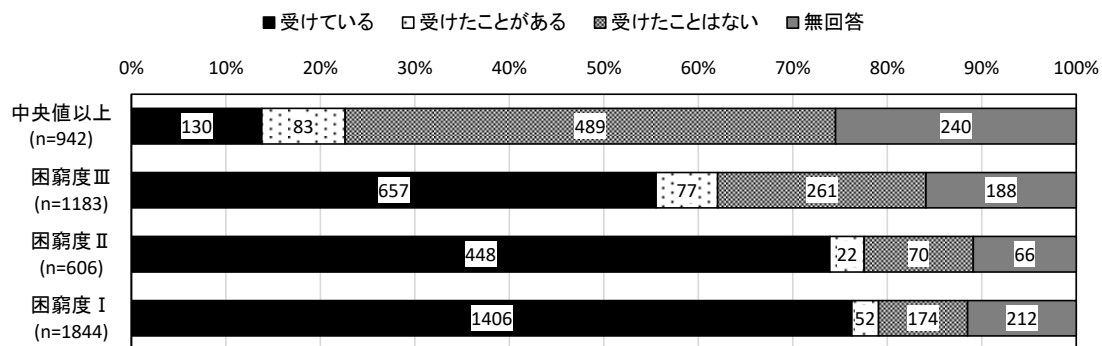


図 127. 困窮度別に見た、児童扶養手当

困窮度別に児童扶養手当の受給率を見ると、困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている。以下はひとり親世帯のみの割合を示したものであるが、同様の傾向が見られる。

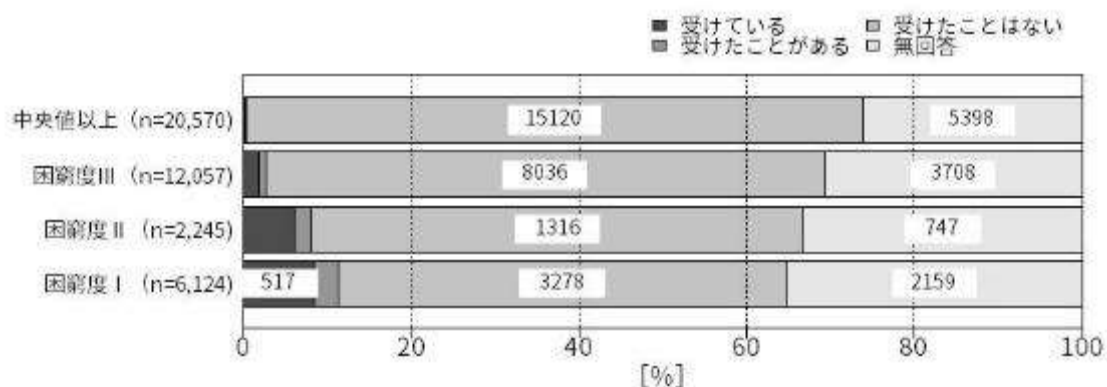
さらに、以下に、ひとり親世帯のなかでの児童扶養手当の受給状況を示す。困窮度Ⅰでも「受けたことがない」が9.4%を占め、無回答が11.5%存在する。

図 127 の補足図. 困窮度別に見た、児童扶養手当（ひとり親）



困窮度別に見た、生活保護（保護者票 問 30(3)⑤）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

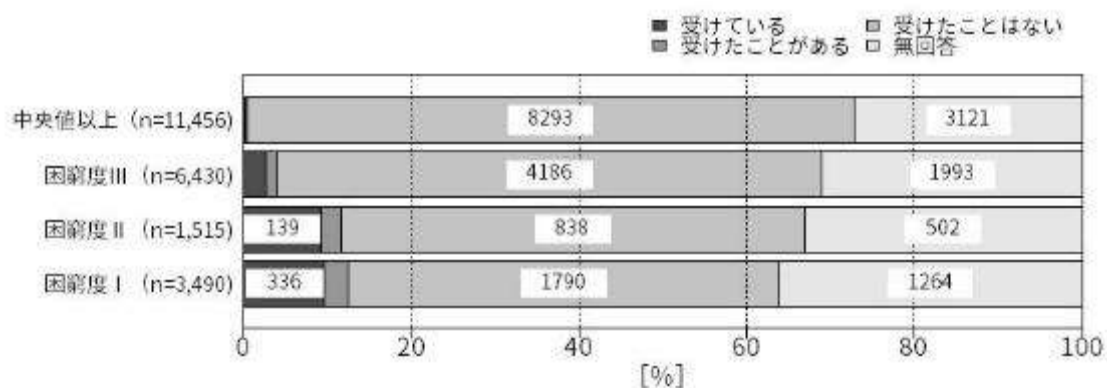
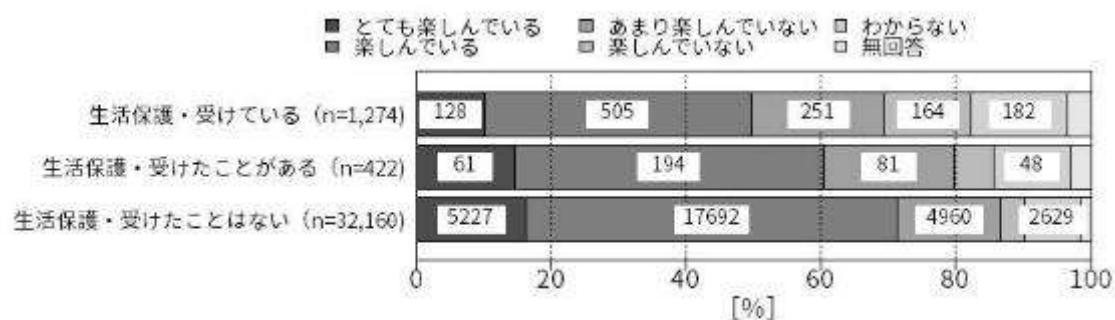


図 128. 困窮度別に見た、生活保護

困窮度別に生活保護の受給率を見ると、困窮度Ⅰ群においては「受けている」と回答した人は9.6%であった。困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている。また、困窮度が高まるにつれ、無回答の割合も高くなっている。

生活保護の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）（保護者票 問 30(3)⑤×
保護者票 問 25(1)）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

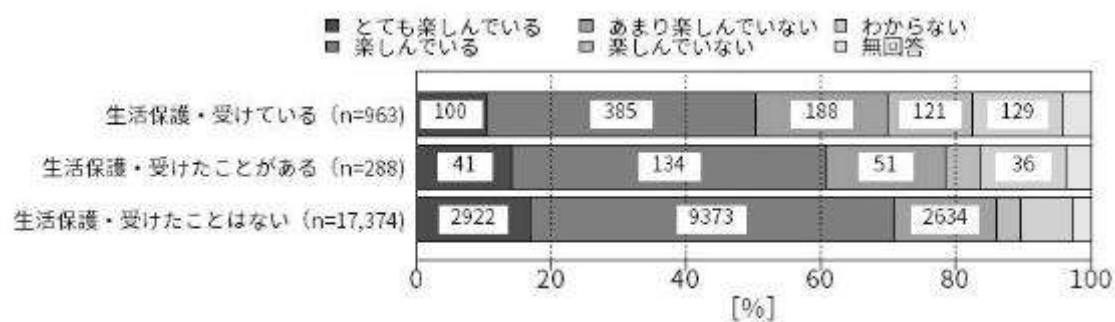
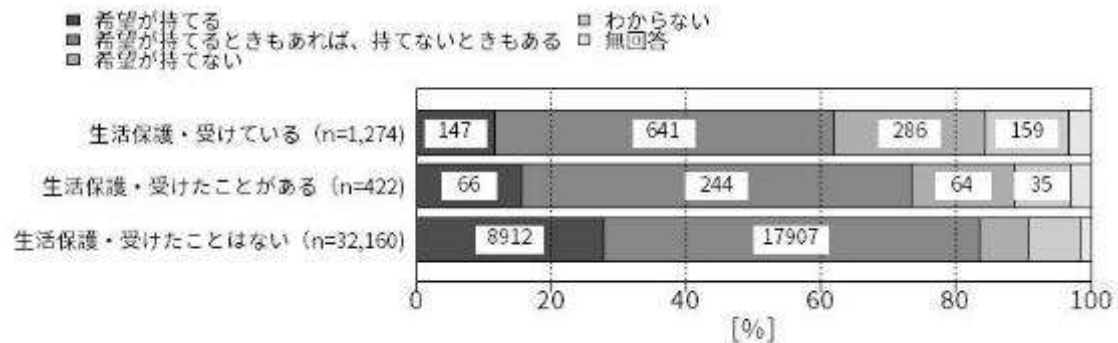


図 129. 生活保護の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

生活保護を受けている世帯では、生活を「楽しんでいない」という回答が12.6%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では5.2%、生活保護を受けたことがない世帯では3.6%であった。また、「とても楽しんでいる」および「楽しんでいる」については、生活保護を受けている世帯よりも受けたことがない世帯においては割合が高かった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（将来への希望）（保護者票 問 30(3)⑤×保護者票 問 25(2)）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

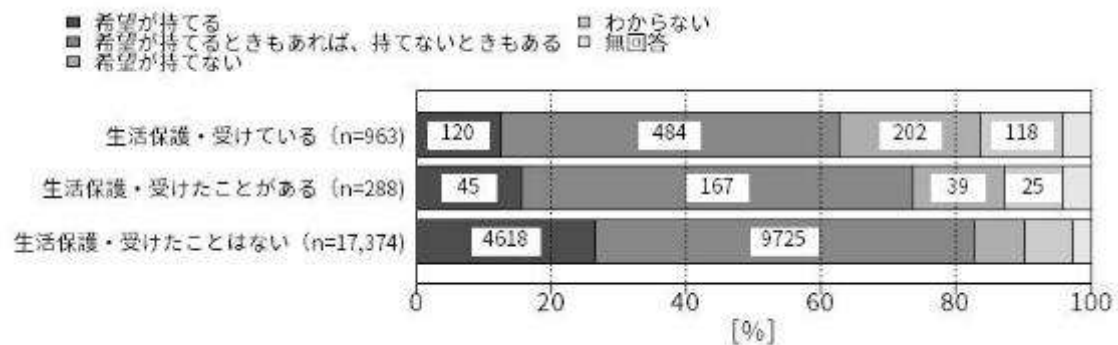
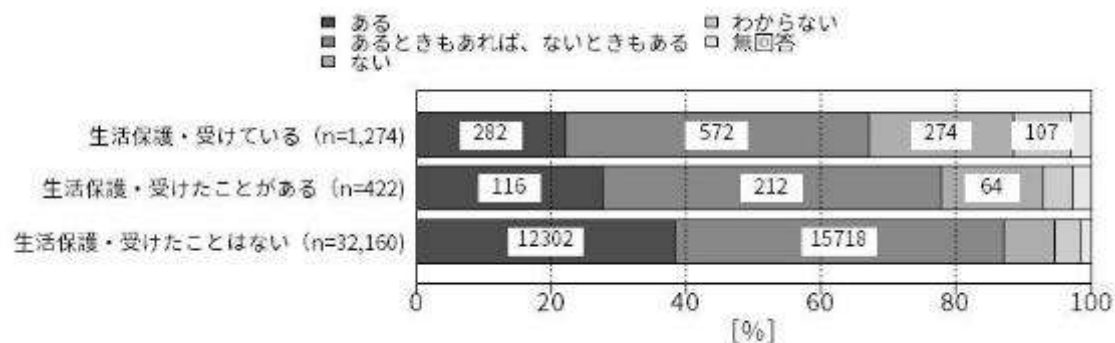


図 130. 生活保護の受給別に見た、心の状態（将来への希望）

生活保護を受けている世帯では、将来に対して「希望が持てない」という回答が 21%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 13.5%、生活保護を受けたことがない世帯では 7.7%であった。また、「希望が持てる」については、生活保護を受けている世帯よりも受けたことがない世帯においては割合が高かった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）（保護者票 問 30(3)⑤×
保護者票 問 25(3)）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

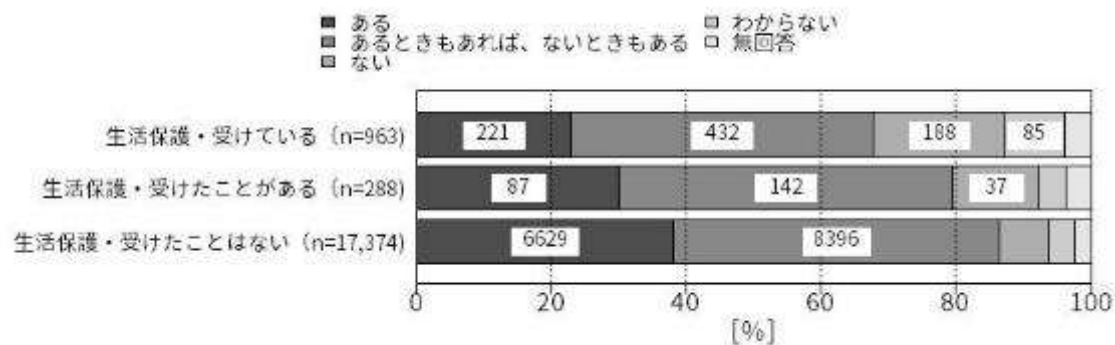
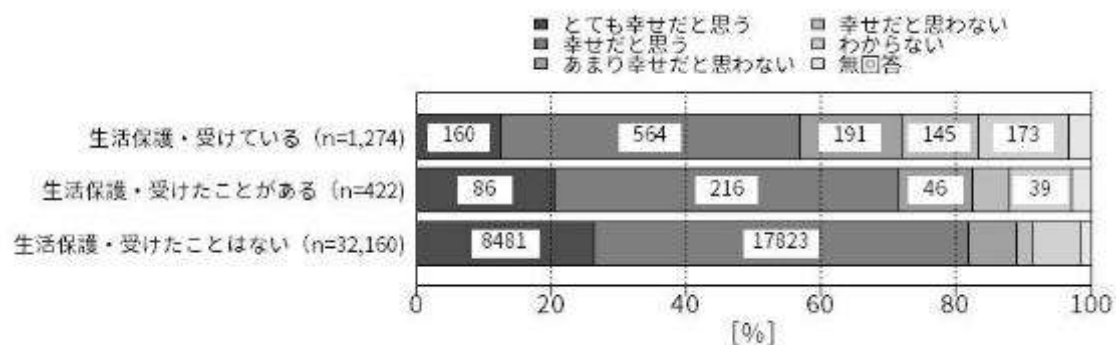


図 131. 生活保護の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

生活保護を受けている世帯では、ストレスを発散できるものが「ない」という回答が 19.5%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 12.8%、生活保護を受けたことがない世帯では 7.3%であった。また、「(ストレス発散できるものが) ある」については、生活保護を受けている世帯よりも受けたことがない世帯においては割合が高かった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）（保護者票 問 30(3)⑤×保護者票 問 25(4)）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

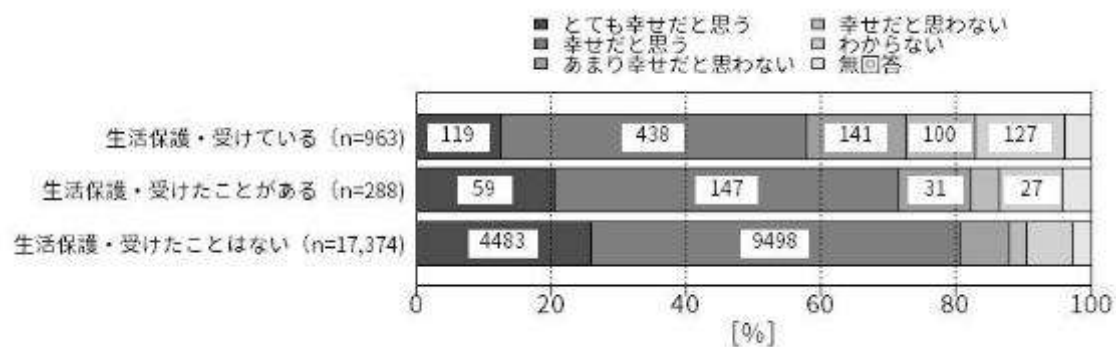
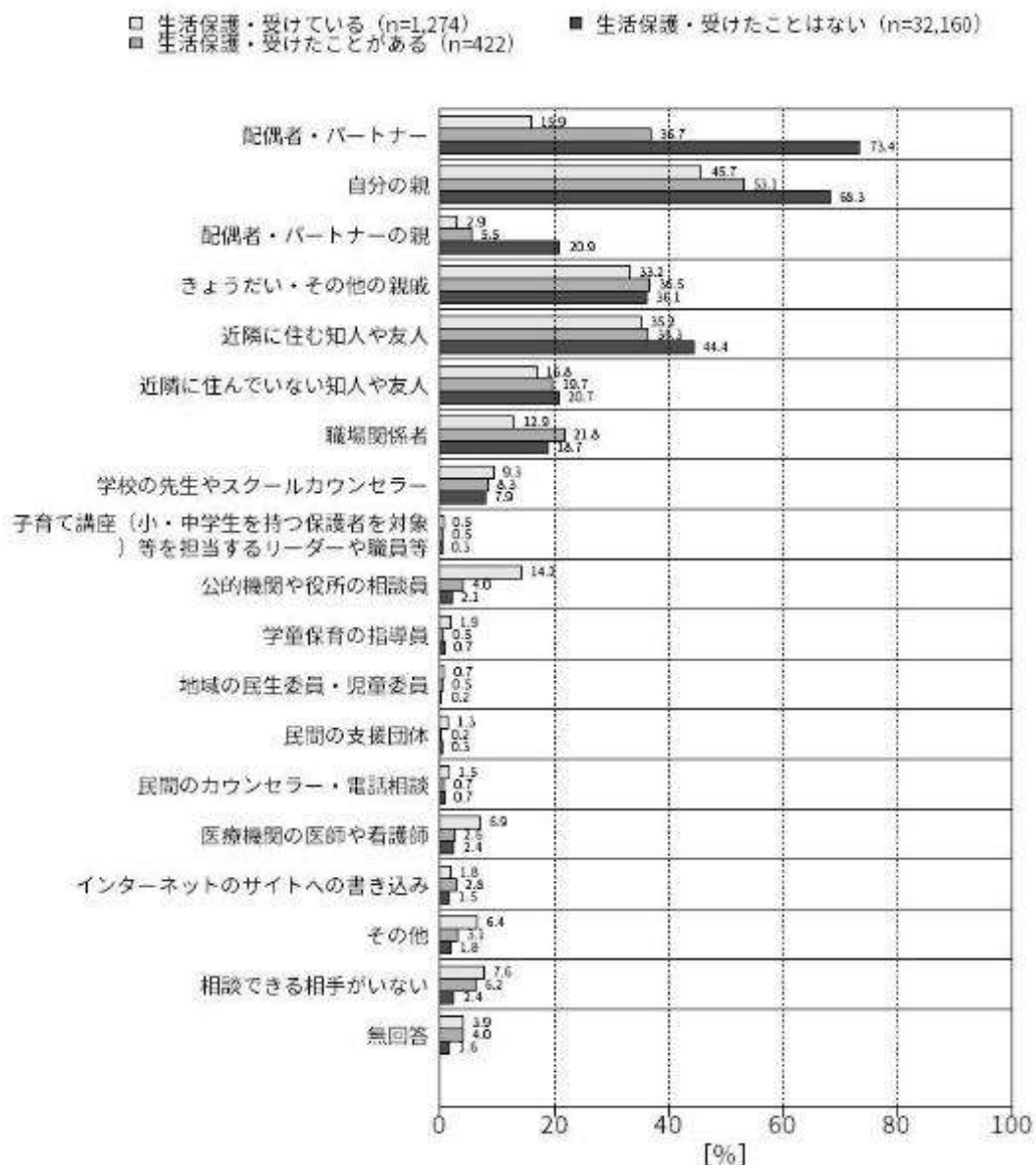


図 132. 生活保護の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

生活保護を受けている世帯では、「幸せだと思わない」という回答が 10.4%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 4.2%、生活保護を受けたことがない世帯では 2.3%であった。また、「とても幸せだと思う」および「幸せだと思う」については、生活保護を受けている世帯よりも受けたことがない世帯においては割合が高かった。

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

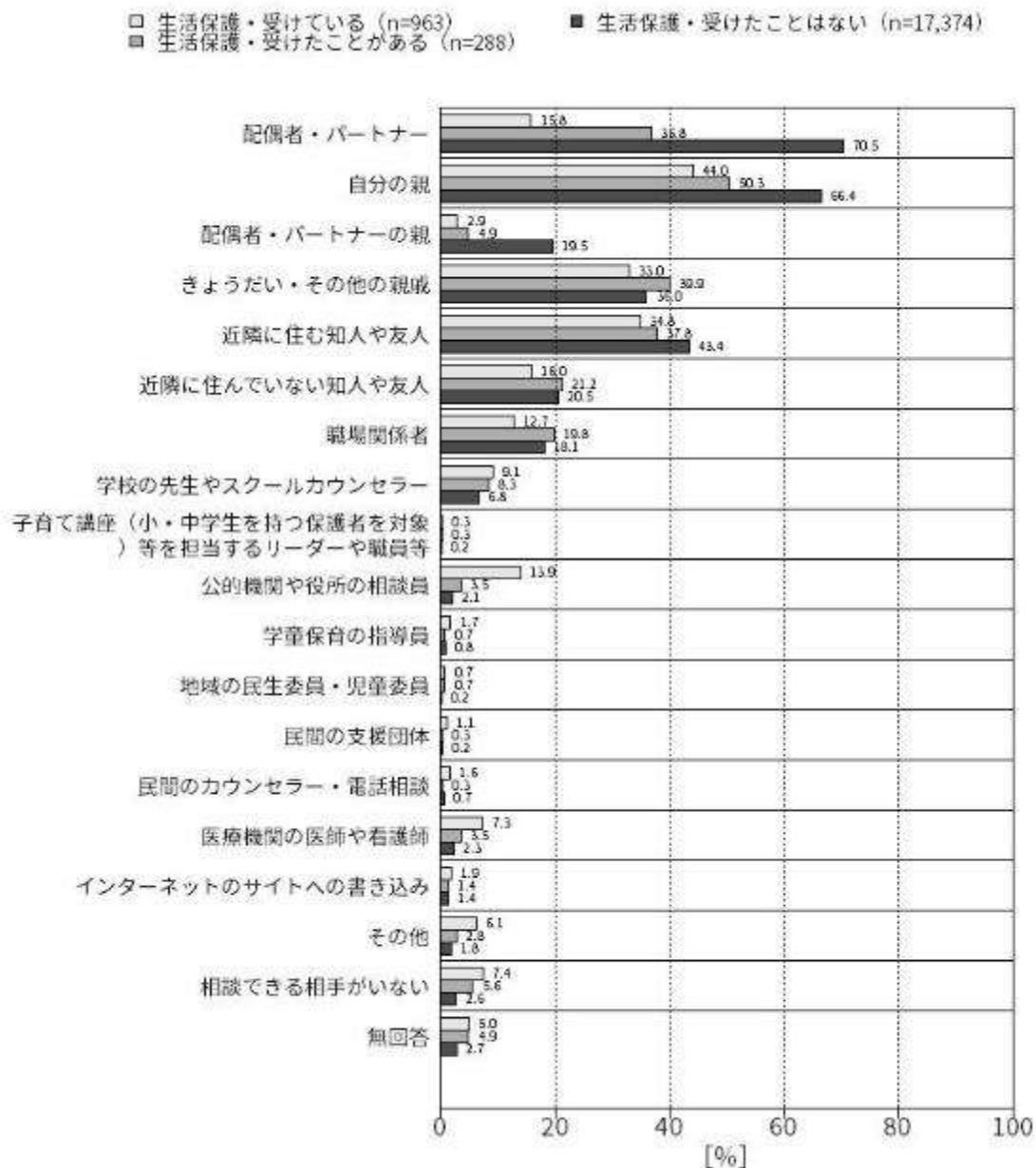
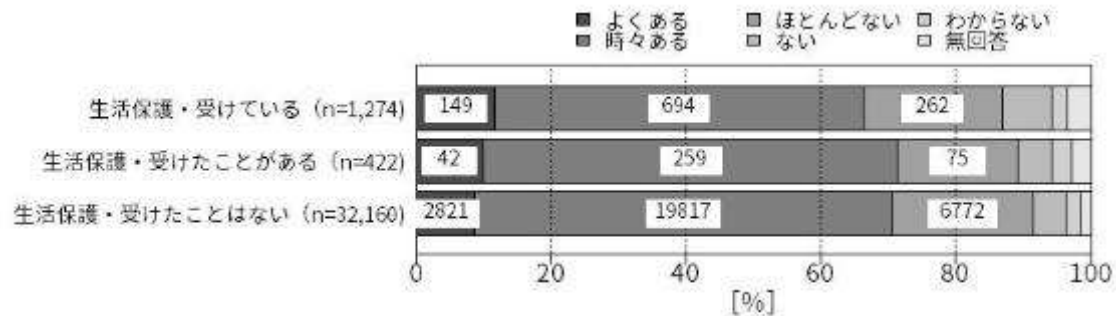


図 133. 生活保護の受給別に見た、困ったときの相談先

生活保護を受けている世帯では、「相談できる相手がいない」という回答が7.4%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では5.6%、生活保護を受けたことがない世帯では2.6%であった。受けたことがない世帯では、配偶者・パートナーが70.5%、自分の親が66.4%と高かったのに対し、受けている世帯ではそれぞれ15.8%、44.0%と低かった。配偶者・パートナーの親も、生活保護を受けたことのない世帯とそれ以外とで大きな差が見られる。また、生活保護を受けている世帯では、公的機関や役所の相談員に相談する割合が13.9%と、他よりも高かった。

生活保護の受給別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと（保護者票 問 30(3)⑤×保護者票 問 27)

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

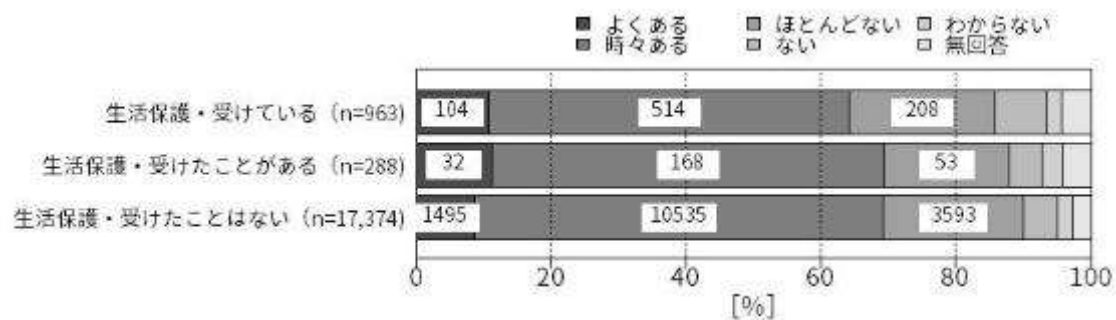
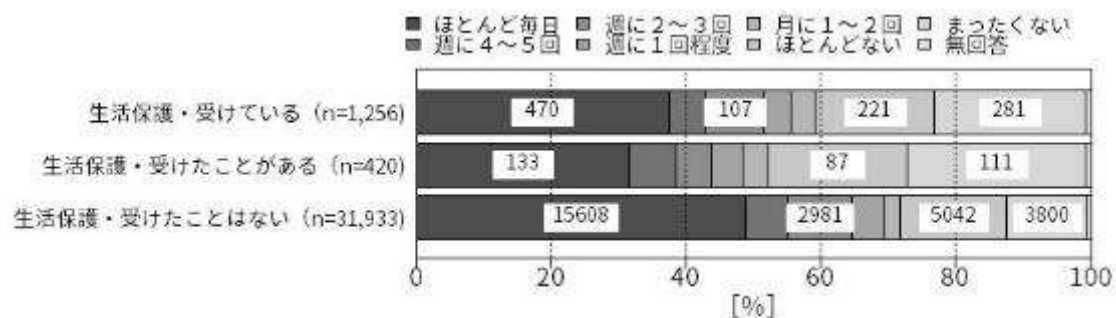


図 134. 生活保護の受給別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと

生活保護の受給別に、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことを見ると、大きな差は見られない。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）
（保護者票 問 30(3)⑤×子ども票 問 10①）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

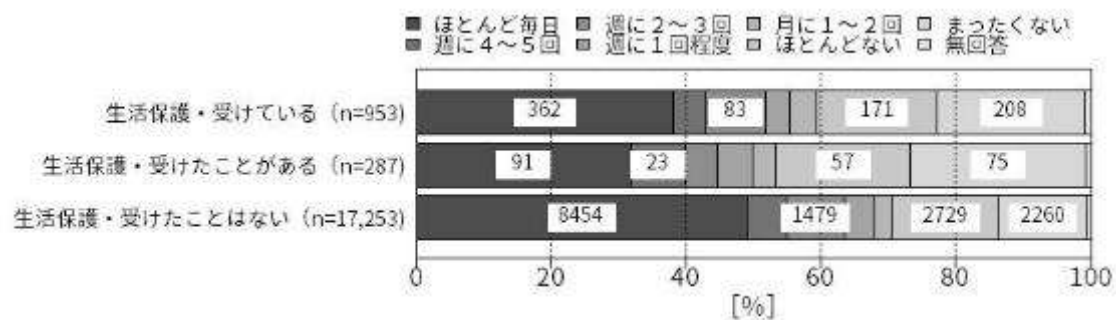
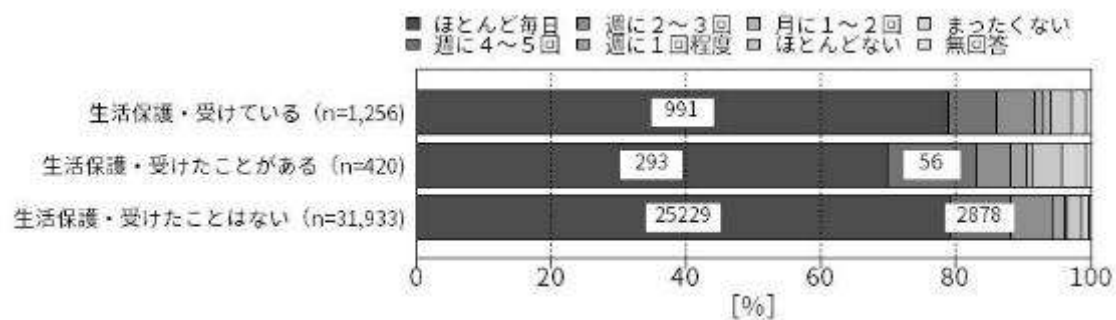


図 135. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べることが「まったくない」と回答した子どもが 21.8%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 26.1%、生活保護を受けたことがない世帯では 13.1%であった。また、「ほとんど毎日」と回答した割合は生活保護を受けている・受けたことがある世帯と受けたことはない世帯とで差が見られた。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）
（保護者票 問 30(3)⑤×子ども票 問 10②）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

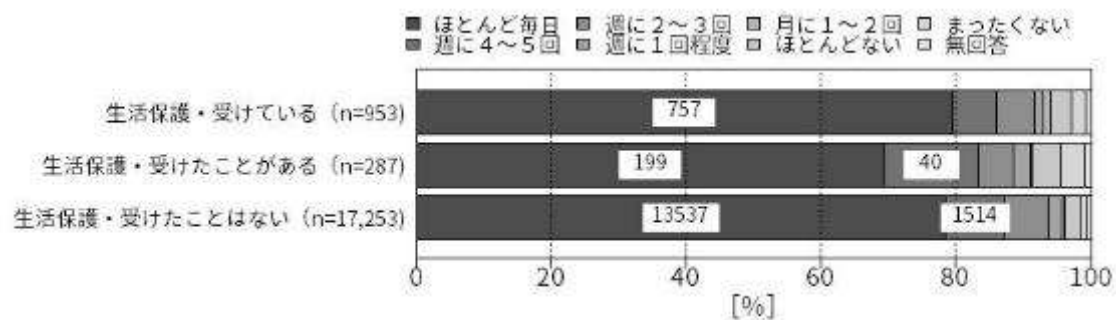
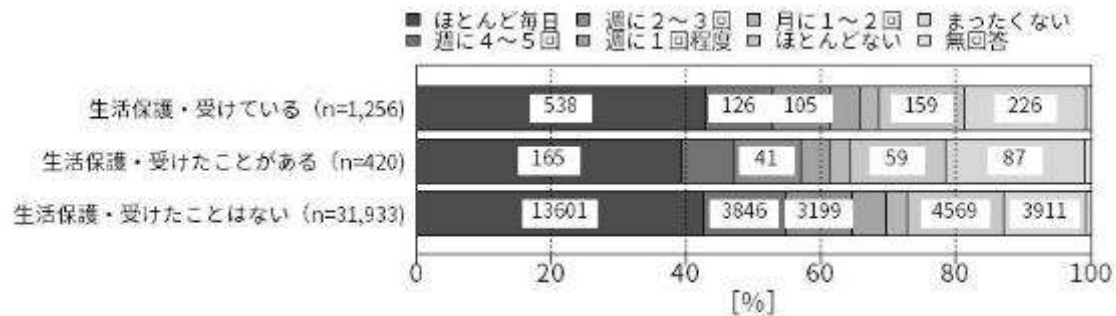


図 136. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）

生活保護を「受けたことがある」と回答した世帯では他とくらべて、ほとんど毎日おうちの大人と夕食を食べる割合が低かった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に朝、起こされるか）
（保護者票 問 30(3)⑤×子ども票 問 10③）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

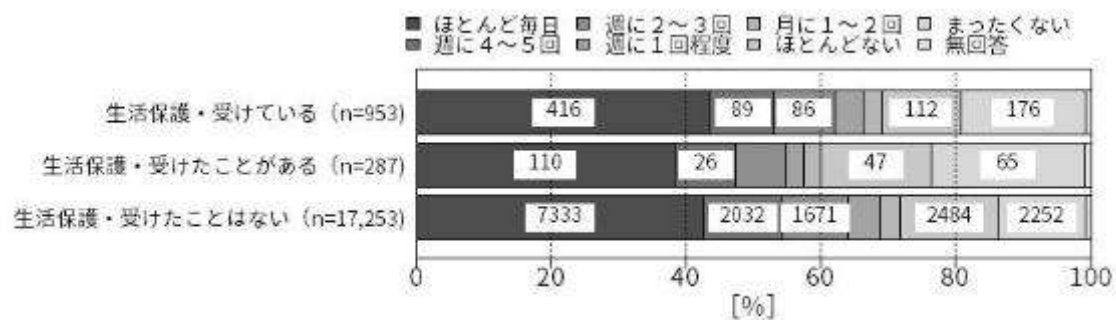
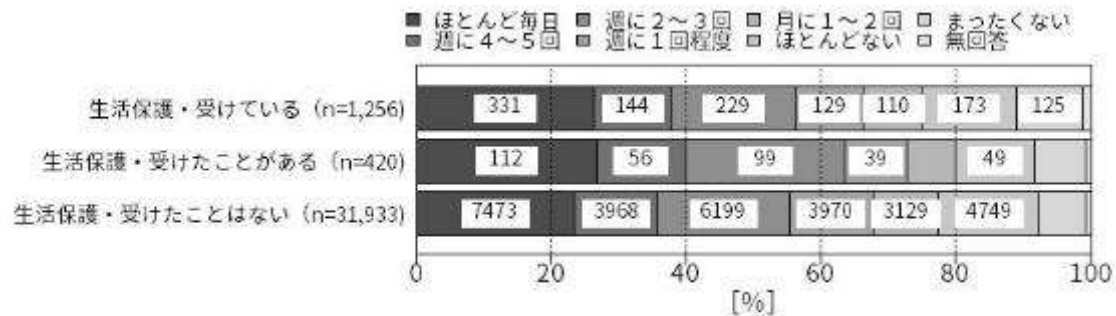


図 137. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に朝、起こされるか）

生活保護を「受けたことがある」と回答した世帯では他と比べて、ほとんど毎日おうちの大人に朝起こされる割合が低く 38.3%であり、「まったくない」と回答した割合が高く 22.6%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（家の手伝いをするか）（保護者票 問30(3)⑤×子ども票 問10④）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

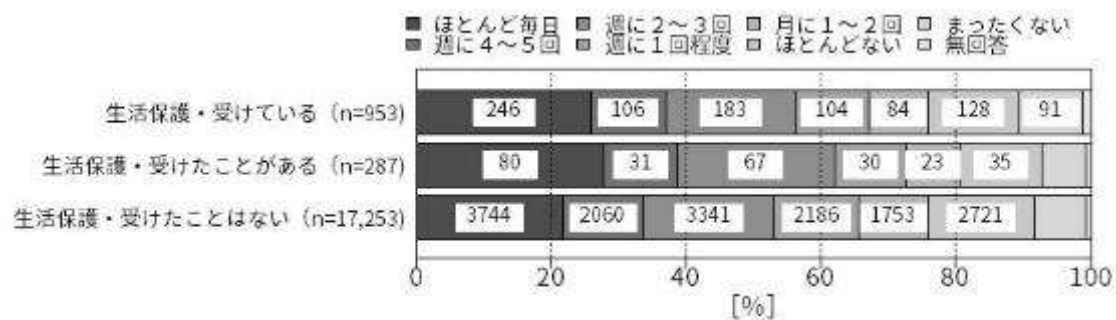
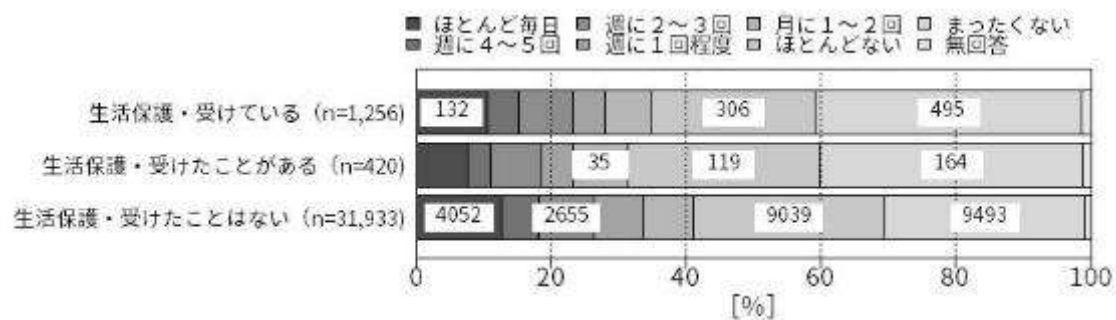


図 138. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（家の手伝いをするか）

生活保護を受けている世帯では、おうちの手伝いをするのが「ほとんど毎日」と回答した子どもが25.8%、生活保護を受けたことがある世帯では27.9%と高く、生活保護を受けたことがない世帯では21.7%と比較的低かった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）（保護者票 問 30(3)⑤×子ども票 問 10⑤）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

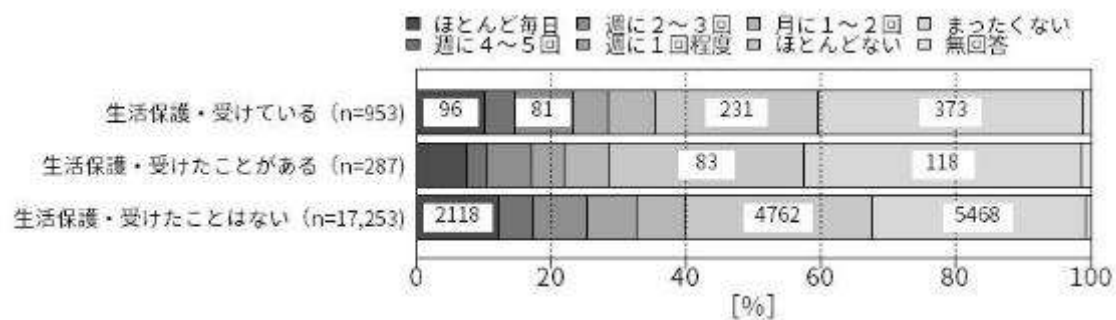
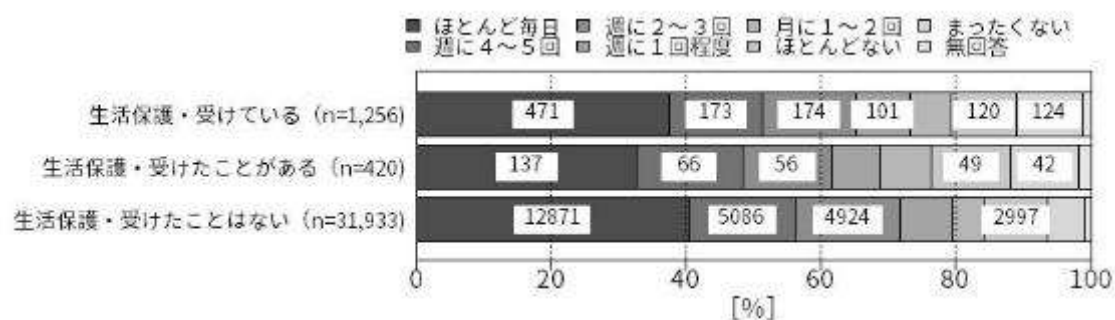


図 139. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうことが「まったくない」と回答した子どもが 39.1%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 41.1%、生活保護を受けたことがない世帯では 31.7%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と学校の話をするか）
（保護者票 問 30(3)⑤×子ども票 問 10⑥）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

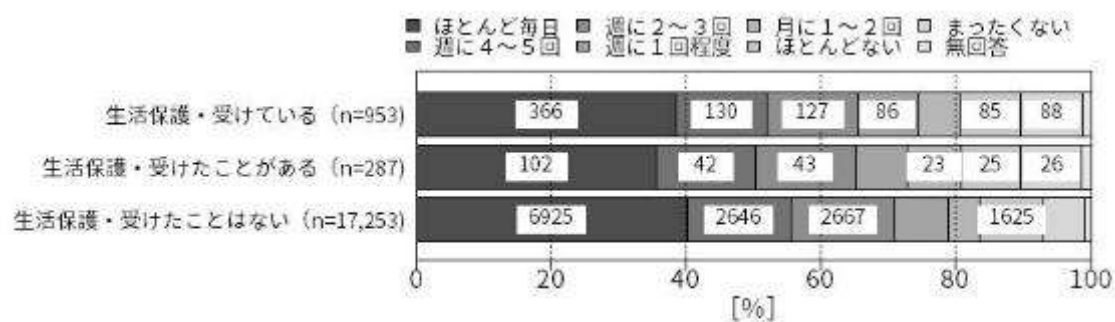
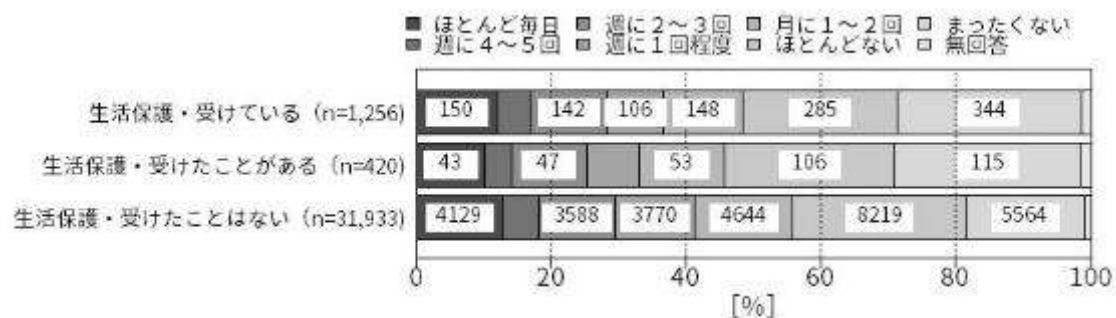


図 140. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と学校の話をするか）

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すことが「まったくない」と回答した子どもが 9.2%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 9.1%、生活保護を受けたことがない世帯では 6.0%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）（保護者票 問 30(3)⑤×子ども票 問 10⑦）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

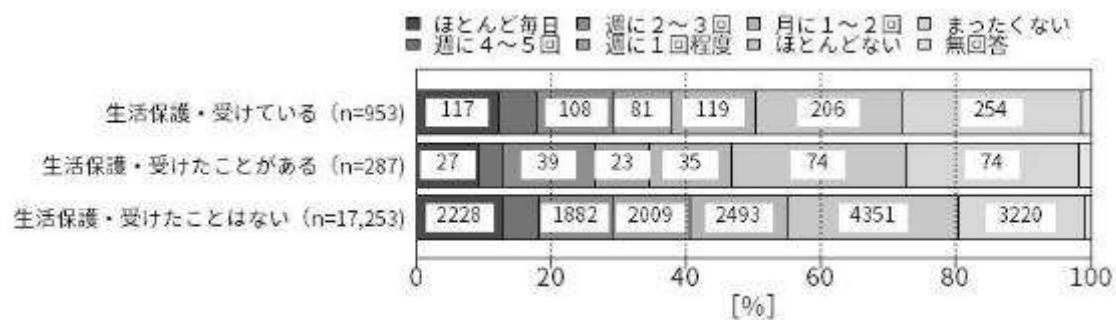
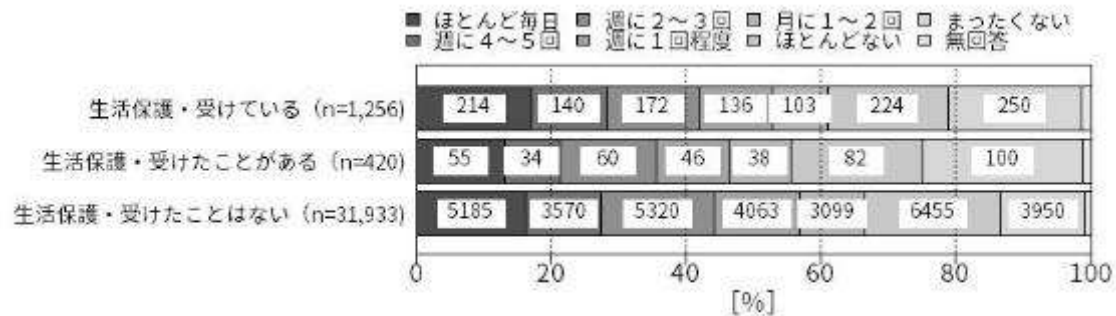


図 141. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりすることが「まったく」と回答した子どもが 26.7%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 25.8%、生活保護を受けたことがない世帯では 18.7%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と社会のできごとを話すか）（保護者票 問 30(3)⑤×子ども票 問 10⑧）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

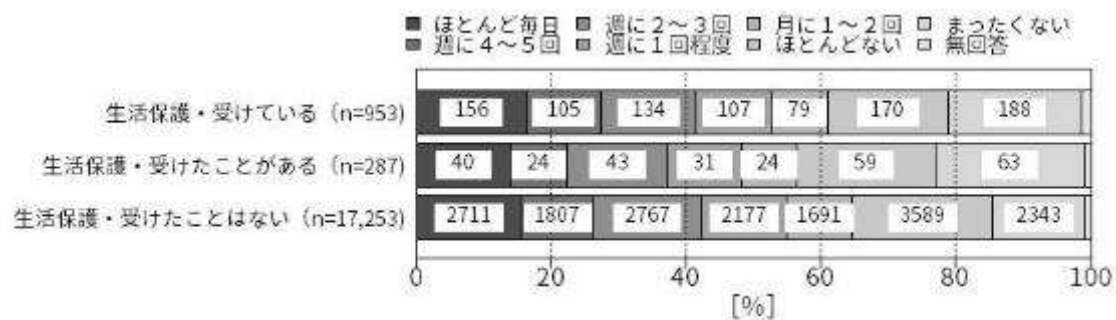
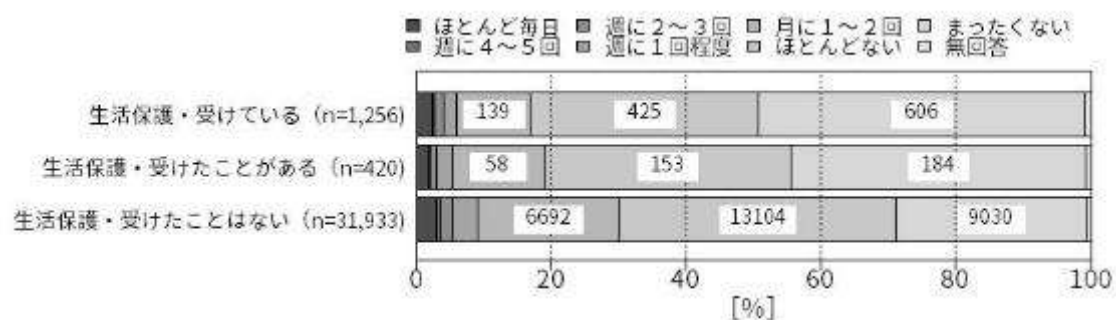


図 142. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と社会のできごとを話すか）

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話し合うことが「まったくない」と回答した子どもが 19.7% に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 22%、生活保護を受けたことがない世帯では 13.6% であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）
（保護者票 問 30(3)⑤×子ども票 問 10⑨）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

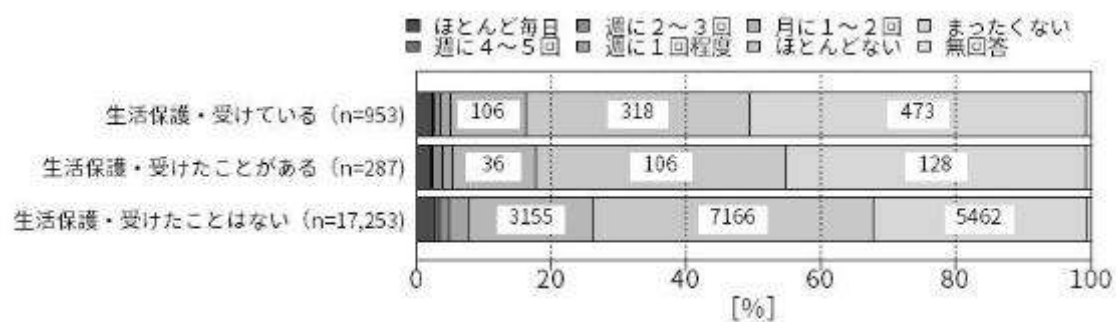
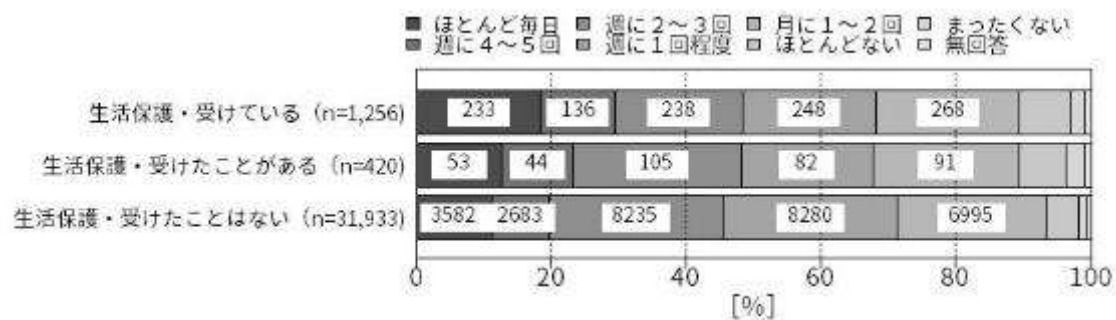


図 143. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と文化活動をする事が「まったくない」と回答した子どもが 49.6%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 44.6%、生活保護を受けたことがない世帯では 31.7%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と一緒に外出するか）
（保護者票 問 30(3)⑤×子ども票 問 10⑩）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

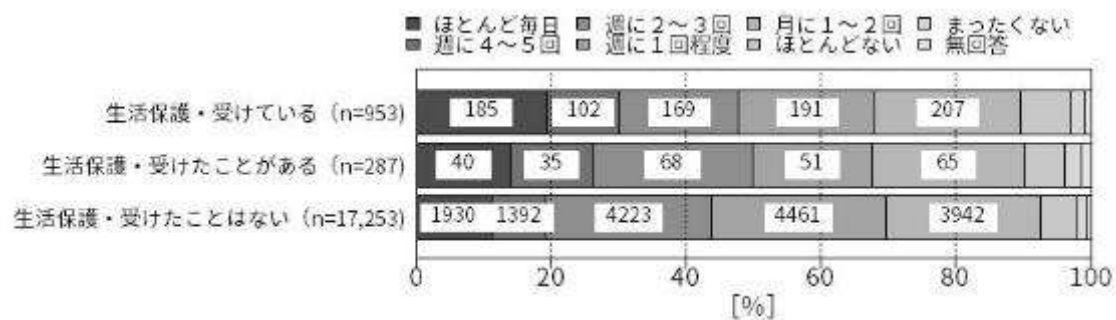
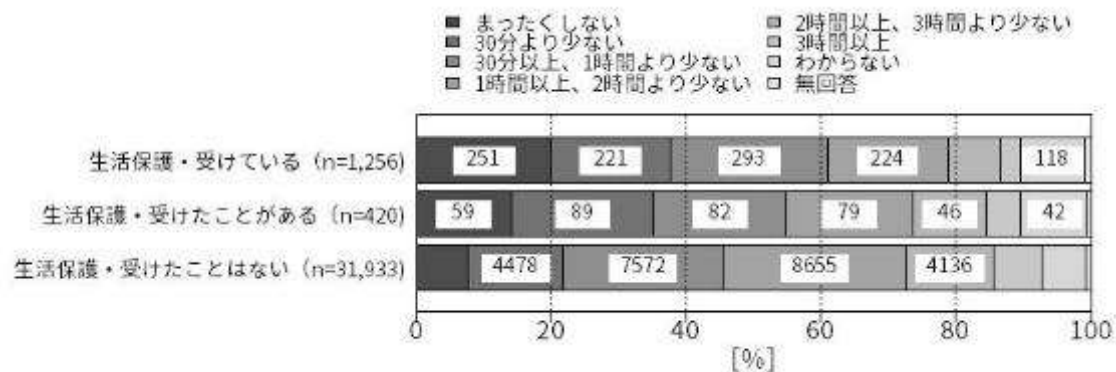


図 144. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と一緒に外出するか）

生活保護を受けている世帯では他と比べて、おうちの大人の人と一緒に外出することが「ほとんど毎日」と回答した子どもの割合が 19.4%と高かった。

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

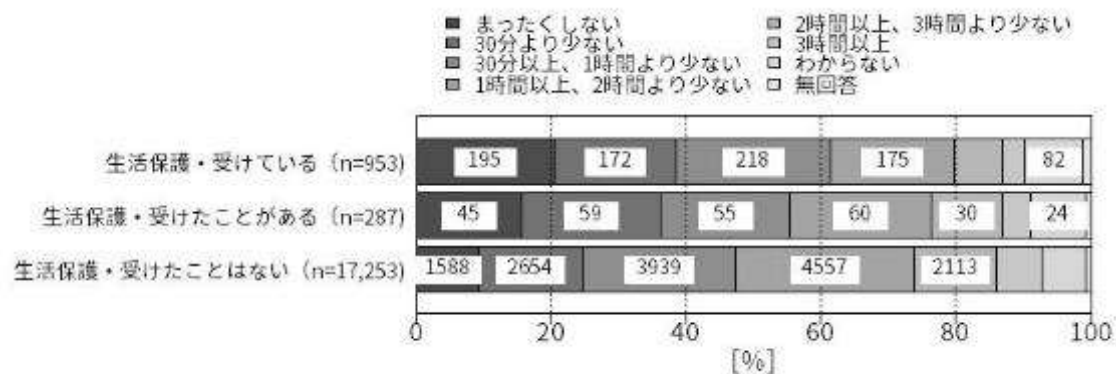
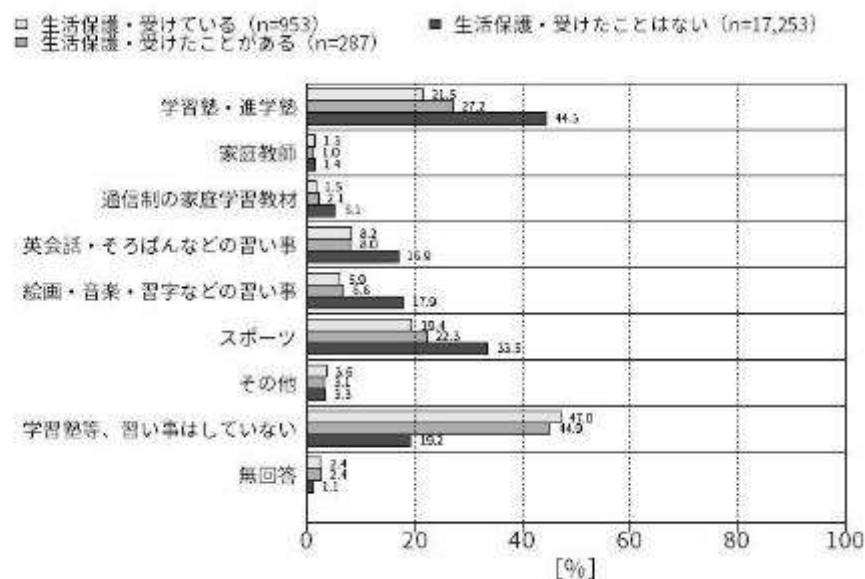


図 145. 生活保護の受給別に見た、授業以外の勉強時間

生活保護を受けている世帯では、授業時間以外に勉強を「まったくしない」と回答した子どもが 20.5% に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 15.7%、生活保護を受けたことがない世帯では 9.2% であった。

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

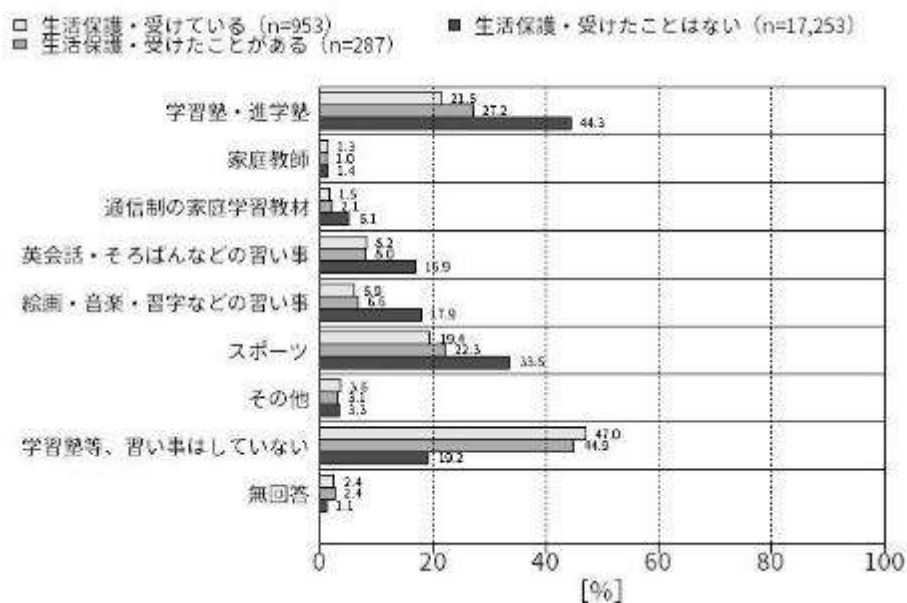
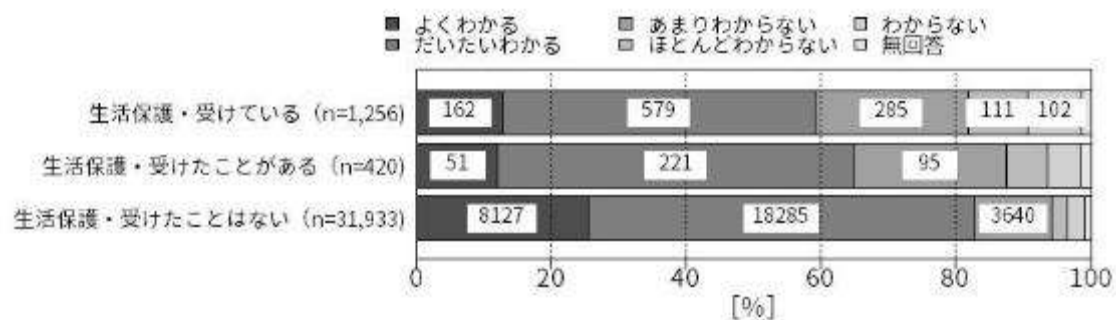


図 146. 生活保護の受給別に見た、学習塾等の利用状況

生活保護を受けている世帯では、「学習塾等、習い事はしていない」と回答した子どもが 47%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 44.9%、生活保護を受けたことがない世帯では 19.2%であった。「学習塾・進学塾」、「英会話・そろばんなどの習い事」、「絵画・音楽・習字などの習い事」、「スポーツ」については、生活保護を受けたことはない世帯とそれ以外の世帯とで大きな差が見られた。

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

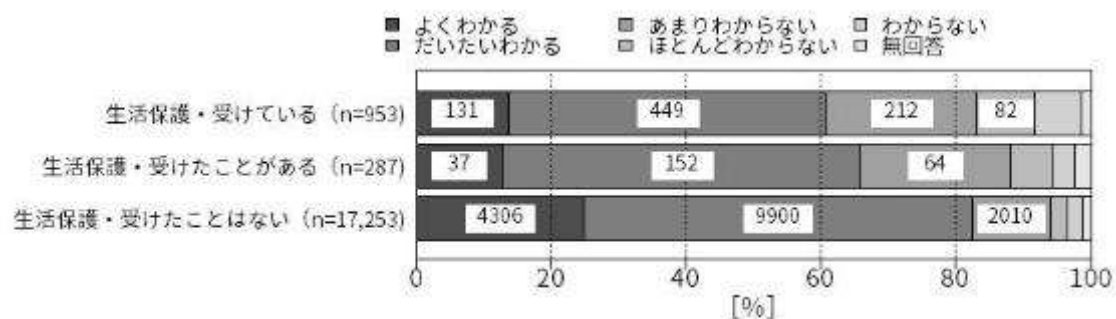


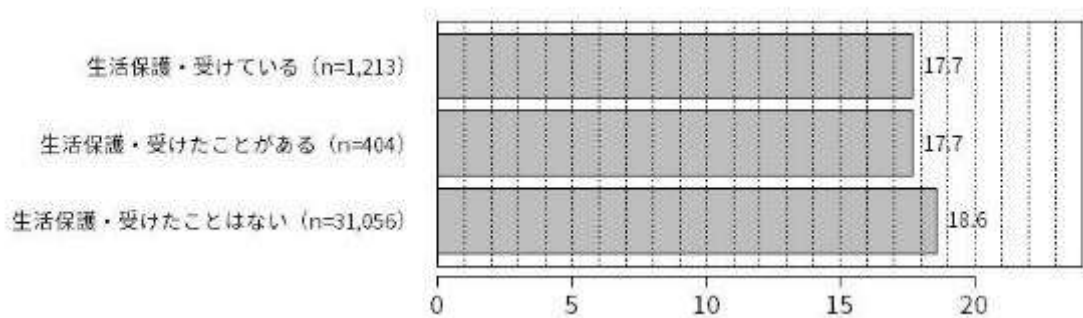
図 147. 生活保護の受給別に見た、学習理解度

生活保護を受けている世帯・受けたことがある世帯では受けたことがない世帯と比べ、「よくわかる」と回答した子どもの割合が低く、それぞれ 13.7%、12.9%であった。また、生活保護を受けている世帯・受けたことがある世帯では「あまりわからない」と回答した子どもの割合は高く、それぞれ 22.2%、22.3%であった。

生活保護の受給別に見た、子ども自己効力感（セルフ・エフィカシー）（保護者票 問
30(3)⑤×子ども票 問 26 (1)～(6))

※「自分に自信がある」「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」「大人は信用できる」「自分の将来の夢や目標を持っている」「将来のためにも、今、頑張りたいと思う」「将来、働きたいと思う」の6項目について、それぞれ4段階で評価させ、その値を合計した得点を、セルフ・エフィカシー得点とした。得点が高いほど、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高いことを表す。

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

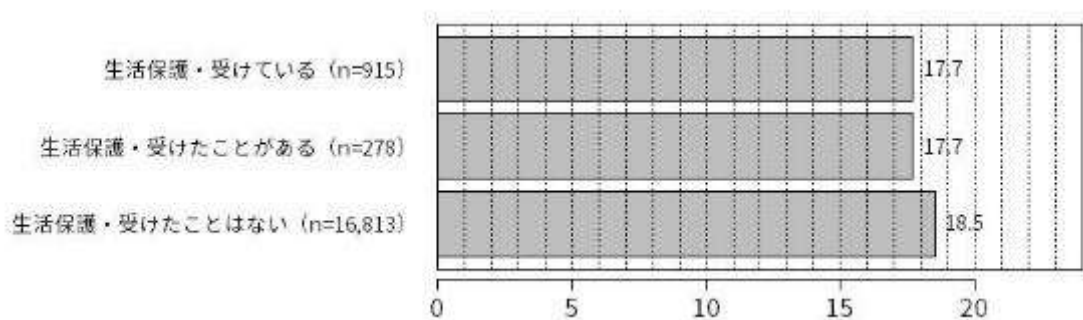
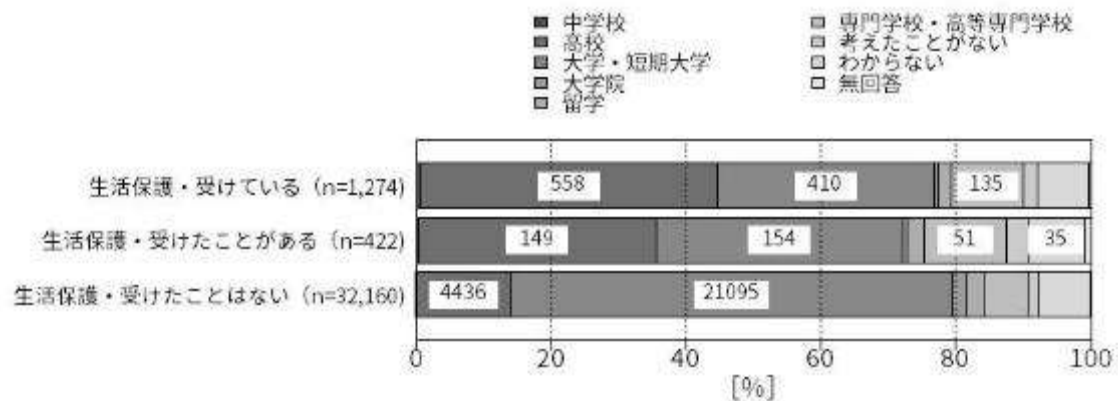


図 148. 生活保護の受給別に見た、子ども自己効力感（セルフ・エフィカシー）

生活保護を受けている世帯では、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の平均点が 17.7 点に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 17.7 点、生活保護を受けたことがない世帯では 18.5 点でありわずかに高かった。

生活保護の受給別に見た、子どもに希望する進学先（保護者票 問 30(3)⑤×保護者票 問 15)

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

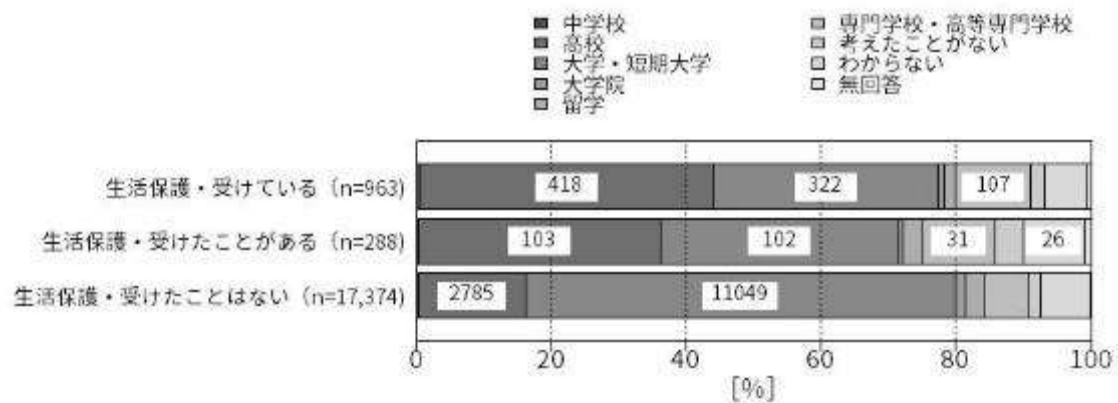
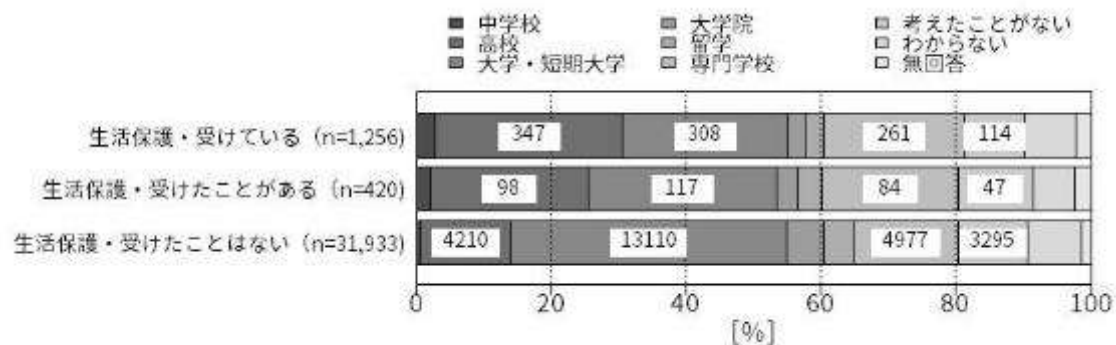


図 149. 生活保護の受給別に見た、子どもに希望する進学先

生活保護を受けている世帯では、子どもに希望する進学先を「大学・短期大学」と回答した保護者が 33.4%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 35.4%、生活保護を受けたことがない世帯では 63.6%であった。また、生活保護を受けている世帯・受けたことがある世帯では中学・高校という回答を合計した割合が高く、それぞれ 43.9%、36.1%であった。

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

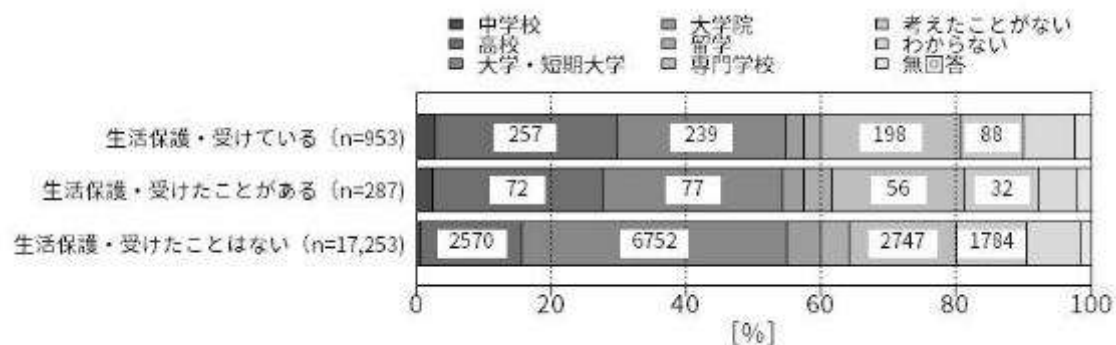
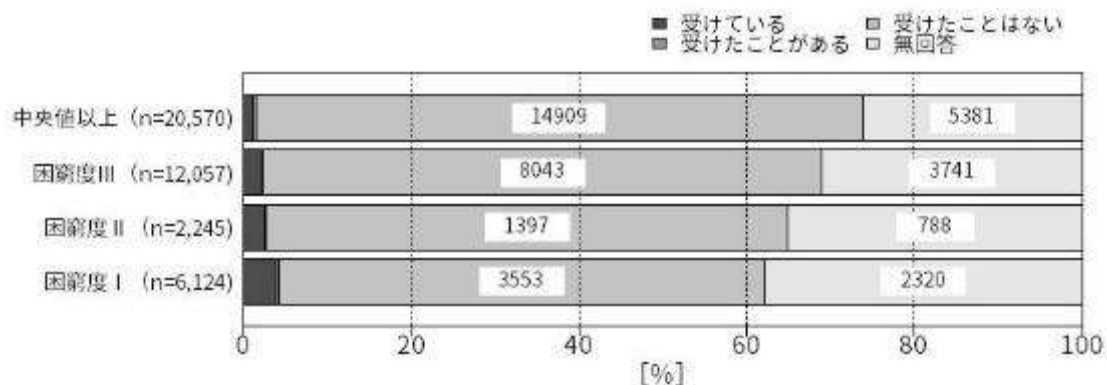


図 150. 生活保護の受給別に見た、希望する進学先

生活保護を受けている世帯では、希望する進学先を「大学・短期大学」と回答した子どもが 25.1%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 26.8%、生活保護を受けたことがない世帯では 39.1%であった。

困窮度別に見た、公的年金（遺族年金、障がい年金）（保護者票 問 30(3)⑦）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

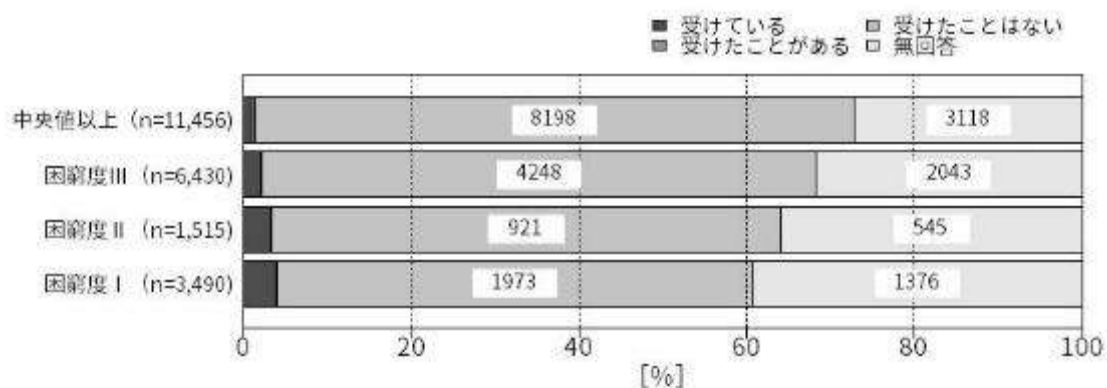


図 151. 困窮度別に見た、公的年金（遺族年金、障がい年金）

困窮度別に遺族年金や障がい年金といった公的年金の受給率を見ると、困窮度が高まるにつれて受けている割合は高くなり、困窮度Ⅰ群においては「受けている」と回答した人は3.9%であった。また、困窮度が高まるにつれて、無回答の割合も高くなっている。